



つくしだより

平成29年11月号

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション 301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2017.11.15 第328号

みんなねつと岡山大会報告

理事 曾田英夫

みんなねつと全国大会が、平成29年10月19日～20日に倉敷市芸文館において、岡山県知事や倉敷市長等を来賓に迎えて約1000名の参加者で開催された。

18日の開会式の終了後、元こらーる岡山診療所所長の山本昌和先生による「当事者中心の地域支援再考」の基調講演内容は「①私たちは、当事者に社会の期待に応えるため社会に同化できる人間になることを期待した。②短期的に成功と思える人でも、再発・再入院する人も多かったが、その人たちに『この人たちに世の光を』と支援し続けて障害者福祉は向上してきた。③しかし、人と人との結びつきが薄くなり、無縁社会が急速に進行してきた。④ここで私たちは、一人一人が違うこと、人は関わりの中でしか生きられないという事を認識しなければならない。⑤このことにより『この人たちに世の光を』から『この人たちが世の光に』への転換ができるのではないか。」本條理事長から以下の報告があった。「審議会等の議題に、支援を必要としている家族に対する支援の必要

性、非自発的入院も本人の意思決定という観点から議論すべきだということのような事が論じられるようになったことは大きな変化と言える。28年度の重点課題として、全国署名のもとに交通運賃割引実現のための国会請願を行った。残念ながら採決には至らなかったが、継続的な課題として取り組んでいきたい。又長年の課題としての精神保健福祉法の見直しを要望していききたい。厚生労働省からは行政報告があったが、レジュメがなく、パワーポイントだけの説明で不評判だった。

初日の最後は、兵庫県豊岡保健所の柳尚夫所長の「ピアサポーターと協働した地域移行支援についての試み」というテーマの講演があった。「日本の精神医療を入院中心から地域生活中心に変える「精神保健福祉改革ビジョン」を国が打ち出してから、10年以上たっても目標には程遠い状況で、平成30年からの障害福祉計画では、3年間で長期入院患者を2.8万人から3.9万人程度減少させることが目標設定されている。私は平成21年から兵庫県の保健所長になって、精神障害者当事者をピアサポーターとして養成・雇用することで

地域移行に取り組んだところ実績を上げることができた。この手法は29年度から一部の自治体でモデル的に取り組まれることになった。」

20日は各分科会に分かれてのパネルディスカッションが行われた。

第一分科会は「地域における医療の確保」でテーマは、安定した生活環境が心身の健康の基盤であるという報告。

第二分科会は「私たちの声を聴いてください」アドボケーターの取り組みと今後の展開というテーマで、岡山県で実施された地域移行の意欲促進を目的とするアドボケーター(代弁者)派遣事業の報告。

第三分科会は「孤立せず地域で暮らすために」というテーマで、様々の立場で地域という畑を耕す(ソーシャルワーク)の地域づくりの報告。

第四分科会は中止になった。

第五分科会は「やはり親亡き後の事が心配です」のテーマで「親亡き後」の不安や課題にどのように対処したらよいかについての話し合い。

第六分科会は、当事者による話し合い。

最後に大会宣言をし、今大会は終了した。来年度は神戸で開催。

東京つくし会創立50周年を

迎えるにあたって
都連会長 眞壁 博美

東京つくし会は、来年の4月13日に創立50周年を迎えます。来る2月23日(金)午後、中野サンプラザにおいて、式典・祝賀会を開催いたします。また、式典・祝賀会の様子も入れた記念誌を来年3月末に発行を予定しています。なお、「東京に暮らす精神障がい者の医療費の負担度に関する調査」報告書(今年7月に発行)と、今年6月22日に開催された上半期講演会の記録冊子も今年中に発行出来るよう準備しています。

この記念すべき50周年を迎えるにあたり、都連理事と元役員をメンバーとして、「50周年記念行事実行委員会」を平成27年1月に立ち上げ、準備を進めてきました。すでに会長宛に式典・祝賀会の案内状が届いていると思いますが、会場の都合もあり、各単会2名とということでご案内しております。

ぜひ、すべての家族会からご出席されますようよろしく御願いたします。

◆50周年記念行事の目的

実行委員会では、この記念行事の目的を次の3点としました。

①創立50周年という節目の年に、活動をつくり上げてきた家族会会員の皆さんと、温かい

ご支援をいただいできました関係機関・団体の皆様方に感謝するとともに、東京つくし会の歴史を学び、これからの家族会活動のあり方を考える機会とします。

②50周年記念誌等をテキストとして活用し、多くの家族会のリーダーを育てます。

③50周年記念行事を期に、関係機関・団体との連携強化をはかります。

ここでは、東京つくし会の歴史を簡単に振り返ってみたいと思います。

◆東京つくし会の発足

かつて精神障がい者の家族は、精神科病院に見舞いに来て他の家族と顔を会わせても互いに話をするとはなく、逃げるようにして病院を出たそうです。昭和30年代に抗精神病薬が広く使われるようになり、退院可能な当事者がはじめたことから、精神科医療者は、「患者の家族を積極的に治療に参加させよう」と家族会を呼びかけ、医師などを中心に運営されていきました。

昭和39年のライシヤワー事件をきっかけに、「精神障害者を野放しにするな!」という歴史に逆行する動きに対し、良心的な精神科医と家族が反対運動を進めました。このような運動の中で、昭和40年9月「全国精神障害者家族会連合会」(全家連)が結成されました。「東京つくし会」も、昭和43年4月に

発足しました。

当初は、10家族会で出発した「東京つくし会」は、保健所や病院の協力を得ながら新しい家族会を発足させていきました。現在は、52家族会が加盟しています。

◆東京つくし会の運動

私たち家族は、精神障がい当事者と家族が、適切な医療を受け、地域で安心して暮らせるための制度や社会資源をつくるために様々な取り組みをしてきました。

昭和50年頃から、家に閉じこもりがちな当事者が外へ踏み出す場所をつくるために「共同作業所」を家族会が先頭になって創っていききました。

社会の偏見や差別をなくしていくために、都民への啓発講演会を開いたり、地域の関係機関の講座の講師を務めたりしてきました。悩んでいる家族や当事者のために家族相談を実施してきました。

また、身体・知的障がい者との福祉制度等の格差を無くすための活動にも、取り組んでいます。





みんなねっと関東ブロック埼玉大会報告

都連理事補佐 大山 竹彦



11月2日(木) 大宮シテイホールにおいて関東全域から450名を越す参加者が集い、盛大に開催されました。今回は『家族の力で地域を変える』をテーマに開かれました。

内容としては、基調講演、シンポジウム、アトラクションでした。基調講演はしつぽふあーれ院長の伊藤順一郎氏による「地域保健医療福祉と家族会の役割」について、ご自分の活動の話を、診療所にACT・FUNチームを立ち上げて訪問活動を主力に展開している事。午前2患者、午後3患者、1日5箇所がやっとかなとの報告でした。悩みに寄り添うのが大事ですとのこと。伊藤先生は『コンボ』の共同代表理事を努めて、地域にネットワークを作るを全家連時代に鍛えられ今に至っているとのこと、社会の役割を熱く語られました。

シンポジウムでは、家族の体験として、息子さんと共に歩んで来た人生を白内美和子さんが語って下さり、支援者には、自立のきっかけを作って下さい、本人は周囲が考えるより生活力があるとの意見は、大山も同感でした。

だるまクリニックの西村秋生先生はACTふあんを立ち上げ外に出て福祉の『視点が

変わった』と話されました。増田一世さんは『ヤドカリの里』での今日までを話されて、家族依存の日本の精神医療、障害者施策の見直しを訴えられ、あふれるばかりの内容でした。蔭山正子先生は地域支援に関わった経験からの家族研究と『家族力の素晴らしさ』『家族による家族学習会』での多くの家族の変化を、先生の感動を、時に涙を流しながら話していただきました。

その後はアトラクションのゴスペルを聞き、ホットさせていただきました。次回の開催の挨拶に期待して、内容のある一日であったと感謝しました。



家族会訪問記

「狛江さつき会」創立30周年記念講演会

副会長 川崎 洋子



10月24日(火)、30周年記念の会にお招きを受け、理事の鬼頭博子さんと共に参加いたしました。

小田急「和泉多摩川」駅は初めて降り立つ駅です。前もって親切に会長の安藤万寿代さんから教えていただいていますのに、ちゃんと会場が見つけれられるかと不安でしたが、なんと1秒もしないうちに「カレーショップ・メイ」が目飛び込んできました。

会場にはすでに数名の方がお集まりでし

たが、なんと皆様、温かく明るく迎えてくださいました。つくし会の理事として長年お世話になった三島瑞子さんにも久しぶりにお会いできて、うれしかったです。

今回は講演と拡大相談会(講師は森澤陽子氏)の2部構成です。安藤会長からは「心の病にいま必要な支援とは…」とテーマをいただいております。なんととっても課題は精神科医療です。調子が悪いとすぐに薬が増えて、又、副作用も重なるという悪循環の医療です。近年欧米では、なるべく薬は少なくして、会話が治していこうという動きがあります。オープンダイアログという言葉を聴く機会が増えていますね。わが国においては、まだ周知度が少ないですが、みんなねっとが取り組んだメリデン版訪問型家族支援は、動き出しています。すでに5人の専門職の方が研修をうけ、札幌、帯広、仙台、名古屋で試行事業を行いました。従来の支援は当事者を中心にしたものですが、今回のメリデン版は家族全員を対象とし、家庭支援を目ざします。

参加の皆さまのお話からも家族の意見がまとまらず、家族間の問題があることがわかりました。家族会としてこのメリデン版家族支援を広げていくことを確認いたしました。お土産にいただいたパウンドケーキのおいしかったこと!

和泉多摩川駅前にあるカレーショップ・メイに行ってきた。メイは狛江さつき会組織の一つでB型作業所になります。家族会がNPOになったことよって活動内容も規模も私の所属する家族会(大田区つばさ会)とは大きく違います。この日は30周年記念として川崎洋子さんと森澤陽子さんの講演会がおこなわれるということ、私も川崎さんにくっついていくことに。乗り継ぐたびに何度も渡る多摩川の不思議や車窓の景色に「遠くの町」を感じ、訪れた店内の思いのほかのモダンさに少々気後れしたけれど、迎えて下さる家族会の方達の柔らかな雰囲気は緊張をなごませてくれて、久しぶりに会う親戚の集まりに参加してのような気持ちになりました。講演会といっても仲間同士の団欒のような感じで、お互いの「家族にとつてのこまりごと」や「体験」

「などを語り合い、メイ特製のパウンドケーキをいただきながらの3時間を惜しみつつ講演会は楽しく終了。
つくし会の理事になってからこういったさまざまな行事に参加する機会がとつともなく増えました。知らない方たちとの付き合いや初めて訪れる場所の多さに緊張が緩む間がありません。とはいえ長年の緩んだ脳はなかなかシャキッとませんが、今後ともうぶん回遊魚のごとき生活を続けていくことになりそうです。

講演会のお知らせ

☆11/20(月) 家族相談にみる家族の問題と解決
～「心の病」を持つ当事者、家族に寄り添って～
講師：みんなねっと理事、梅の木会会長 野村 忠良氏
会場：稲城市地域振興プラザ4F 大会議室 申込不要
主催：稲穂会 ☎042-377-4711

☆12/9(土) 不安・強迫・摂食性障害
講師：大泉病院社会医療部長 山澤 涼子氏
会場：新宿区立障害者福祉センター
主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

☆賛助会費☆(敬称略)									
内藤クリニック	3	0	0	0	円				
田沢 幸子	3	0	0	0	円				
田鹿 好昭	2	0	0	0	円				
宮本 里詩子	2	0	0	0	円				
ちひろメンタルクリニック	5	0	0	0	円				
こまごめ緑陰診療所	5	0	0	0	円				
石川クリニック	5	0	0	0	円				
代々木の森診療所	5	0	0	0	円				
勝どき二丁目クリニック	5	0	0	0	円				
ありがとうございます。									



編集後記

先日、『新宿フレンズ』の夜の懇親会に行ってきました。東京つくし会の資料の中に新宿フレンズの会報があり、一度参加したいと思っていた会なので、連絡して参加しました。6時半から9時半頃までの話し合いで、参加者は25名を超える会合で盛況でした。当事者も数名、新宿であり、会社帰りの人、横浜からの人、八王子の大山等、幅広い参加者でした。一人の人の報告があると他の参加者からアドバイスの意見や、自分の体験など、ピア活動らしい活発な声が響き暖かく、実践的な意見が飛びかう会場でした。これからもこの会に関わりを持ち続けようと思ひ、入会してしまいました。次への準備をしています。『SST』リーダーの資格取得でした。また、八王子市イキイキ課が主催し、センター元気が受託運営するボランティア講座『傾聴』『コーディネート講座』『ボランティア入門講座』を受講しました。コーディネイト実務では事務局会議に加わりました。最近は一気に幅を広げたせいか整理が追いついていない状態です。本来の『子供の明日へ』を念頭に置いた動きに集約しようと思案しています。

都連理事補佐

大山 竹彦